

## 「環境で地方を元気にする！地域循環共生圏」議事要旨

---

(開催要領)

1.開催日時:令和3年1月25日(月)13:30~16:20

2.場 所:岡山コンベンションセンター

3.登壇者 :

中国四国地方環境事務所 所長 上田健二

環境省大臣官房環境計画課企画調査室 室長 佐々木真二郎

岡山県井原市 市長 大舌勲

岡山県井原市 美星町観光協会 副会長 三宅輝明

岡山県真庭市 副市長 吉永忠洋

地方創生イノベータープラットフォーム INSPIRE 代表理事、BBT 大学経営学部グローバル経営学科 学科長・教授 谷中修吾

環境省地域循環共生圏プラットフォームコーディネーター 高橋真寿美

(プログラム)

1. 開会挨拶 上田健二

2. 施策説明 佐々木真二郎

3. 講演①:取組発表等 『美しい星空環境を守り育てる「星の郷」まちづくり—美星町観光協会の挑戦—』 大舌勲／三宅輝明

4. 講演②:取組発表等 「地域循環共生圏“真庭”の取り組み」 吉永忠洋

5. 有識者講演 「ローカル SDGs の超絶まちづくり～人と自然が共存共生する地域循環共生圏の創造～」 谷中修吾

6. パネルディスカッション テーマ:「地域資源を磨いて地域活性化につなげるためには？」

パネリスト 吉永忠洋／三宅輝明／谷中修吾／佐々木真二郎

ファシリテーター 高橋真寿美

7. 閉会挨拶 佐々木真二郎

\* 敬称略・順不同

---

1.開会挨拶

SDGs は日本が今、地域で直面している問題です。環境省では地域が目指す未来社会のビジョンを「地域循環共生圏」と名付けています。要は、ローカル SDGs を目指すことです。地域固有の資源を賢く使い、地域で経済を回す自立分散型の社会は、新型コロナなど感染症にも強いものとなります。

## 2. 施策説明

毎年のように深刻な気象災害が発生し、持続可能な社会に向けた変革の動きが世界中で起きています。農山漁村では食料や水、エネルギーが生産でき、都市には多くの人材や資金があります。お互いに支えあうことで自立分散型の社会を強固なものにしていくという考え方です。脱炭素、循環経済、分散型社会への移行を共生圏の中で具体化することが地域での SDGs の実践にもなり、多くの人々の協働で進めることが地域循環共生圏のコンセプトです。

## 3. 講演①: 取組発表等 『美しい星空環境を守り育てる「星の郷」まちづくり—美星町観光協会の挑戦—』

### ① 大舌

井原市は藍染織物が盛んで、戦後は国内初のデニムを織った地域です。この地域にしかない産業や文化、自然を活用しようと取り組んでいます。市北部の美星町では美しい星空を守ろうという条例を制定して 30 年になります。

### ② 三宅

美星町は「星の郷まちづくり」に取り組んでいます。環境庁のコンテストで昭和 63 年から星をテーマにしたイベントを始めました。天文グループから「美星町の星空を守って欲しい」という提案があり、平成元年、日本で初めて光害防止条例を制定しました。令和 2 年には、民間企業の協力を得ながら光害に配慮した防犯灯を約 400 基、町内に設置しました。

星空保護区認定に向けて、自動販売機や電飾看板の夜 10 時以降の消灯推進活動など、美しい星空環境を維持するための様々な取組を行っています。

## 4. 講演②: 取組発表等 「地域循環共生圏“真庭”の取り組み」

岡山県真庭市は「里山資本主義」が代名詞で、里山の資源を活用して地域内経済循環を起こす経済システムや生き方は、ローカル SDGs そのものです。象徴的な事業がバイオマス発電で、原木の売れ残りや製材屑等で発電し、年間 24.5 億円を売り上げています。地域の余り物をあますことなく使い、みんなが喜ぶ仕組みです。もう一つは「真庭ライフスタイル」。都会ほど稼ぎはないが、家族との充実した暮らしがあり、地域の務めを果たす中で幸せを思う生き方です。

## 5. 有識者講演 「ローカル SDGs の超絶まちづくり～人と自然が共存共生する地域循環共生圏の創造～」

イノベーターが実践している「超絶まちづくり」は、突き抜けたアイデアから出発する価値創造型のビジネスデザイン技法を基本としています。ワクワクする取組に全力を注ぎ、環境に関する社会的課題を紐づけると、強い価値を持つローカル SDGs の取組が生まれます。また、世界のまちづくりを研究して、海外の先端事例とされているサステイナブルな地方創生とは、日本の地方が日常で実践してきたことであるという示唆を得ました。今、地域に存在するエコな取組を「編集」して、価

値創造型の「超絶まちづくり」に展開していくと、ワクワクする地域循環共生圏を実現することができます。

#### 6.パネルディスカッション テーマ:「地域資源を磨いて地域活性化につなげるためには？」

##### ① 高橋

地域循環共生圏とは何か、地域資源を磨くとはどういうことなのか、どうやったら地域活性化につながるのか、分かりやすく噛み砕いて進めていければと思います。

##### ② 吉永

真庭の地域資源は「人」で、物という意味では「木」の文化です。今、市の蒜山高原に新素材 CLT のモニュメントを移築しています。建築家の隈研吾さんのデザインで、東京・築地にオリンピック用に作られたものです。真庭に来て作った物の、里帰りです。新しい真庭の文化拠点になると思います。

##### ③ 三宅

美星町の地域資源は星です。振り返ると、美星町を知って欲しいというこちらからの発信を中心に進んできましたが、外からの声、視点を見失っていました。今回、コンソーシアムを立ち上げ、町外の人に色々なところを見つけてもらう体制が出来つつあります。外からの意見をもらい、地元が気づかなかったことを掘り起こしたいです。

##### ④ 谷中

地域のあらゆる資源が素材になりますが、価値をどう定義するか、ストーリーを紡ぐことでその地域にしかないオンリーワンの価値になり、みんなが「いいね」という状態が作られます。ビジネス化のポイントは、個人事業でも中小企業でも、ビジネスを起こした経験がある地域住民を仲間に入れること。

##### ⑤ 佐々木

活用しやすいのは地域の「宝」。歴史や文化があり、活性化の大きな武器になります。でも、地域で余っていたり、処理に困っていたりするものも地域資源として見つめ直すことが大事です。地域循環共生圏プラットフォームで提供したいのは、谷中さんの言葉をお借りすると「飲み会」のような場。人と人が会って話をすると多くの事例が共有され、面白い発見が起こります。

私達が目指す地域循環共生圏は決して難しいものではなく、環境にも貢献するような取組、事業やビジネスが地域でたくさん起こり、社会の仕組みを変えていくということが柱になっていると思います。

#### 7.閉会挨拶

本日のシンポジウムでは、「楽しみながらやる」や「人が資源であり、人こそが地域の宝である。その人と人との出会いが新しいものを生み出し地域を活性化していく」というメッセージを発信できたと思います。環境省でも地域循環共生圏の取組を進めていますが、一緒に取り組んでいただける企業や地域の方々を募集しています。

以上